

新春

わかさ能

能楽の魅力探訪

安宅

シテ

山中雅志

〈仕舞〉老松
 〈仕舞〉東北
 〈仕舞〉野守
 〈一調〉善知鳥

生一知哉
 塩谷 恵
 山階彌右衛門
 観世喜正 守家由訓



令和5年

1月9日

月祝 12:00 開演 (開場 11:00)

奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜 【能楽ホール】

奈良市春日野町101 電話 0742 (27) 2630

アクセス 近鉄・JR「奈良駅」から奈良交通バス(市内循環)
「東大寺大仏殿春日大社前」下車

入場料 S席：6,000円 (エリア内自由席)
A席：4,000円 ※座席図裏面参照

チケット販売 令和4年11月8日(火)販売開始

- 当日はマスク着用でお越し下さい。●感染症対策にご協力お願い致します。
- 会場に駐車場はございません。身体障がい等、ご事情のある方は奈良能へお問合せ下さい。

チケット販売所

- ◎奈良能事務所
TEL: 0742 (24) 5171 (不在時留守電対応)
[Mail] npohoujin.naranoh@gmail.com
- ◎奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜
TEL: 0742 (27) 2630 [奈良市春日野町(月曜休館)]
- ◎オンラインチケット
[URL] www.i-ra-ka.jp/から24時間チケットを予約・購入可
- ◎奈良県文化会館(文化情報センター) ※窓口販売のみ
TEL: 0742 (22) 0200 [奈良市登大路町(月曜休館)]

主催：NPO法人奈良能 共催：奈良県(奈良春日野国際フォーラム) 後援：奈良市

お問合せ

NPO法人奈良能 TEL: 0742 (24) 5171
[Mail] npohoujin.naranoh@gmail.com

新春 わかさ能

能楽の魅力探訪

令和五年 一月九日(月)祝日 十二時開演
奈良春日野国際フォーラム
薨しI・RA・KA

仕舞

老松 生一 知哉
東北 塩谷 恵
野守 山階彌右衛門

善知鳥 親世 喜正
守家 由訓

能

安宅

吉田 学史
山中 雅志

勸進帳

福王

和幸

森山 泰幸
荒木 建作

齊藤

敦

間

茂山 逸平
茂山 七五三

井戸 良祐
山階彌右衛門
塩谷 恵

梅若雄一郎
伊藤 裕貴
宮本 茂樹
深野 貴彦

吉田 篤史
久田 勤鷗
観世 喜正
林 宗一郎

※やむを得ない理由により、演者及び公演の内容が変更になる事があります。

■仕舞「老松(おいまつ)」シテ老松ノ精
へこれは老木の神松の。千代に八千代に。さざれ石の。巖となりて。苔のむすまで。苔のむすまで松竹。鶴亀の。年老いた神が力強くゆつたりと舞い、変わらぬ松のめでたさを謡う、新年に相応しい一曲です。

■仕舞「東北(とうほく)」シテ和泉式部
へげにや色にそみ。香りにめでし昔をよしなや今更に。都の東北院、春の夜の間に、梅が香をまといて現れる和泉式部の霊。和歌の徳を称え、東北院の景色を愛で、香りを残して春の宵に消えてゆきます。

■仕舞「野守(のもり)」シテ鬼神
へ東方降三世明王もこの鏡に映り。又は南西北方を映せば、八面玲郎と明らかに。閻魔の庁にある生前の善悪の行為を映し出すという浄玻璃の鏡、銀の仕舞扇を左手に持ち、この浄玻璃の鏡に見立てて力強く舞う、かつこい仕舞です。鬼神の飛び出す野守の池は奈良飛火野にあります。

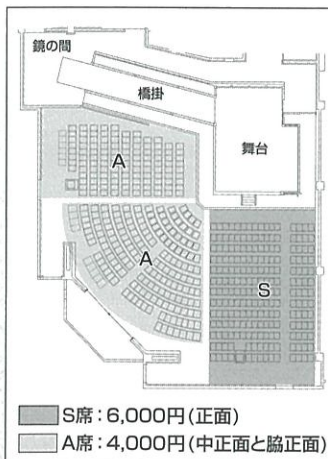
■一調「善知鳥(うとう)」シテ狐師の霊
へ娑婆にては善知鳥やすたか見えし。一調とは囃子一人と謡一人が対峙して能の一節を演奏する演目で、能の技能の一騎打ちと言えます。

本来、謡と囃子は調和を求めるものですが、一調での囃子方は気合のこもった掛け声とともに、囃子独自の特別な手を打ち、謡も負けじと囃子に乗せようとします。一期一会の緊迫感をお楽しみ下さい。

■能「安宅(あたか)」

「安宅」は、時系列で物語が進む「現在能」の代表作です。

ワキ	富樫何某
子方	判官源義経
シテ	武藏坊弁慶
ツレ	義経家臣



物語 義経は兄頼朝に追われ、義経主従十数人は山伏にやつし、都を落ちますが、頼朝は義経逃さずと国々に関所を立てます。
へ旅の衣は蓑懸の。一行は加賀安宅で先に関があることを知り、弁慶は義経をくたびれた山伏にしたで、自らは南都東大寺勸進の僧と名乗り、山伏を斬らんとする関守の富樫と対峙します。
へいのでい早期の勤めを始め。富樫は勸進帳を讀めと命じ、へもとより勸進帳はあらばこそ弁慶は巻物をそれらしく讀み、へ天も響けと読みあげたり。讀み切った弁慶に恐れをなし、通そうとしますが、義経に似たと強力を見咎めます。弁慶は強力を叱責打擲、へかたがたは何故に 山伏一行は富樫に迫り、圧倒された富樫は通関させます。
関から遠ざかった後、へ弓馬の家に生まれきて義経は機転を利かせた弁慶を勞い、我が身の不運を嘆きます。そこへ富樫が酒を持って詫びに訪れ、へ面白や山水に 弁慶は酒興に舞を見せ、へ鳴るは流の水 一同は陸奥へと急ぎ行きます。
見どころ シテが勸進帳を讀み上げる謡は重習いの「三詠物」の一つで、拍子の取り方が難しく、囃子とのせめぎあいを楽しめます。そして関所での掛け合い、一旦通れるとなつた後の足止めからの対決、うねる様な山伏一同の押し合いと、息もつけない緊張感に圧倒されます。